

令和3年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	「文武両道」を実践し、新しい時代、新しい分野を切り拓く心豊かなリーダーを育てる進学校
本年度の重点目標	1 自己学習力の強化 (学習時間・読書数の提案、進路選択に繋がるテーマ研究・表現力強化) 2 進学指導 (指定校入試依存からの脱却、それを可能とするデータの提示) 3 部活動・自治活動の充実 (部訓整備、上級生が下級生を見守り指導する体制作り) 4 教員研修 (外部研修、校内研修の実施、「一人一年一研究」による教育力の引き続きの研鑽) 5 募集活動を全体的に見直しながら定員確保 (最重要課題として取り組んでいく)

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

＜自己評価委員会＞	
学校関係者	3名
内部委員	14名

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標				年度評価 (2月15日現在)			実施日:令和4年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	
1	(自己学習力の強化) 「文武両道」は本校が誇る特色であり、その特色を一層充実させるために、生徒の学力向上に向けて、学習習慣の定着、学習時間増に引き続き取り組む必要がある。 5月の生徒アンケートから家庭学習時間の平均は1時間弱(5分)。約2割の生徒が0時間という状況で、学年が上がるにつれてその割合が高くなっている。3年生の0時間は25.6%にのぼっている。学習習慣の定着を図る。 また、読書については、1ヶ月平均0.55冊であった。 2,3年生では、1冊も読んでいない生徒は70%を超えている。読書習慣の定着を図る。 また、進路指導の年間計画に厚みを持たせるために、学年の状況に応じた取り組みを加えることや「テーマ研究」(仮称)や東大の「金曜特別講座」の視聴といった生徒の興味関心に応じた多様なプログラムを提供する。 「学力3要素」「英語の4技能」などへの対応も視野に置いた教育システムの構築を図る。	主体的な自己学習力を高める 進路に向けた自己学習力を高める 読書の励行 学力3要素への対応 英語4技能への対策 テーマ研究のレポート作りやパワーポイント等を用いたプレゼン作品作り	・隙間学習を含めた学習計画を例示し、2時間以上の学習習慣の定着を図る。また、定期的に学習計画を見直し学習リズムを作る。学習支援センターの活用。 ・1ヶ月に2冊以上の読書の励行。ポップコンテストや外部の読書感想文コンテスト等への応募の励行。 ・企業の取り組みや大学の学部学科、大学の研究や研究施設の調査を通じて、将来の学びのイメージを作る。 ・「SDGsに関する一考察」「地元を世界に発信する」などのテーマに従ったレポートやプレゼン作品を作ることを通じて、それぞれの興味関心を深め、進路選択につなげる。 ・表現力を育てるとともに、引き続き「言葉に強い」生徒を育てる。 ・定期的に人生設計を考えさせ、「今未来手帳」を活用して日々の振り返りを促す。 ・英検等検定試験では準2級以上の合格を目指すよう指導する。 ・近隣の大学との協議により、出張授業や研究室見学などを依頼。	・家庭学習時間が2時間、月読書数2冊以上を超えたか (達成率60%) ・各自が学習教材を決めた学習計画を立てられたか ・テーマ研究に生徒が十分に対応できたか。また、それを文化祭やホームページへの掲載へとつなげられたか ・検定試験の準2級以上の取得状況、及び、外部コンテストへの応募状況 ・近隣大学の出張授業等の実現状況	・隙間時間を利用した学習時間の確保は徐々にではあるが意識を持つようになって来ている。 ・読書への意識は高まりつつある。読書感想文コンテスト等への応募数が増加した。 ・進路の日を通して将来への学びのイメージ作りを行い、生徒・保護者から好評であった。 ・テーマを自ら決めて、興味関心を深めるためにプレゼン作品を学年全体で取り組んでいる。作品は文化祭で発表する予定である。 ・検定試験やコンテストが新型コロナウイルスの影響で中止となり、成果が出せなかった。 ・英検は準1級が2名、2級が14名、準2級が22名、合計38名が合格した。 ・今未来手帳は学年が進行する毎に意義を理解しているので、早い段階で意義を理解させる指導が大切である。 ・東京大学の「金曜講座」への参加者が1名であったが徐々に増えて5名が毎回参加している。	A	・隙間時間の有効活用の意義を指導し、活用する生徒を増やす。 ・読書の意義を指導し、校内でのコンクール開催を企画する。 ・進路の日に加え、企業の取り組みや大学や研究施設への訪問を実施する。 ・プレゼン作品の発表の場を文化祭、外部コンテストへの出品を薦めて行く。 ・大学入学共通テストの分析結果から、授業の組み立てを修正する。 ・英検は卒業時までには準2級以上の合格を目指す。	・テーマを各自が決めてプレゼン作品作成は是非成功させて欲しい。状況把握としてアンケートを次回実施して結果を見せて欲しい。 ・今未来手帳の取組は将来にわたって役立つ取組なので、1年生の段階から意義について指導して欲しい。 ・どの項目でも目標を設定して努力していると感じられる。可能な項目には目標値を設定すると、生徒、保護者、教師皆が理解しやすく、努力し易いと考ええる。 ・アンケート結果で、「そう思わない」「全くそう思わない」と回答している設問に対して教員側に関心を持ってもらいたい。 ・英語科の先生方をはじめ先生方に負担をお掛けするが、英検の級取得は2年生までとして、3年生では受験に集中出来る環境を整えて欲しい。 ・結果から改善策を考え、先生方が一丸となって改善策に取り組んでもらいたい。 ・授業計画が生徒へ伝わっていないので、一人ひとりの生徒に伝わるようお願いしたい。
2	(進学指導) 昨年度の進学者大学・短大・専門学校への進学は、浪人を含めると95.6%であった。しかし、四年制大学への進学者の80%強は指定校推薦での合格であった。従って本校の進学実績の向上を目指すための課題は、指定校入試に頼った進路選択からの脱却であるとともに、新たにAランクの大学の指定校を獲得していくためにも一般入試、総合型選抜および学校推薦型選抜(公募制推薦入試)での合格者を増やして	学力形成を背景にした進学指導 一般入試合格への距離感が持てる 各種データの整備	・大学合格者の各学年の模試偏差値等(個別相談時を含め)を入試形態別に示し、一般入試、総合型選抜、学校推薦型選抜(公募制推薦入試)、「共通テスト利用入試」の合格データにより、指定校推薦に頼らない進路選択ができるデータ提示を行っていく。 ・進学実績の短期目標(3年間) 国公立大合格 10名 G-MARCH以上合格 30名 この実現に全教員で取り組む。	・一般入試を基軸とした進路指導ができるデータができたか ・一般入試、総合型選抜、公募制推薦入試の受験者数、合格者数が伸びたか	・大学合格者のデータを利用して個別の進路指導を行うようになった。 ・学校推薦型選抜を利用した受験者数は若干の伸びを示した。 ・現在各種のデータの整備中である。 ・進学実績の短期目標実現の為、各教科会議を重ね、教授法の研究を行うようになった。	B	・各種データの整備を急ぎ、次年度の進路指導に活用が出来るようにする。 ・大学入学共通テスト、一般入試用の講習を充実させる。 ・進学実績の総括から次年度の短期目標達成の為のデータ分析や教授法を引き続き行う。	・進路の日の取組が生徒にとって大きな切っ掛けとなっているのが分かる。埼玉平成独自の手法で多くの生徒の進路実現に向けて意欲喚起を継続してお願いしたい。 ・コースの区別なくきめ細やかな進路指導が行われているのが分かるが、それがもっと進路実績に繋がることを願う。

	<p>いく必要がある。</p> <p>また、大学等入学後の専門の勉学に備えて、最後まで授業に集中して学習を重ねるためにも「共通テスト」受験を推奨することを前提とした授業を行う。</p> <p>大学生活に関する情報に触れる機会を増やす。また、「埼玉平成ニュース」で卒業生の情報を適宜扱う。</p>	「共通テスト」受験を推奨する授業展開	<p>・上記目標達成を念頭に置いた、入試からの逆算の授業、模試対策、勉強合宿、集中講習、朝学習等を工夫して実施する。</p>	<p>(短期目標1年目)</p> <p>国公立大受験 7名 G-MARCH 30名 など</p> <p>・「共通テスト」を意識した授業が展開できたか</p>	<p>・『埼玉平成ニュース』や『座右の銘』を各クラスに掲示し始め、読み込む生徒が増加した。</p> <p>・国公立大学合格 名、G-MARCH合格 8名</p>		
3	<p>(部活動)</p> <p>新型コロナ感染対策上の種々の制限の下で、部活動では「文武両道」をモットーに感染対策をしながら顧問も部員も真摯に取り組んでいる。部活動は、「心の成長」という点で大きな役割を果たしている。多くの部活が部訓や部のモットーを定めその精神や姿勢が先輩から後輩へ受け継がれている。より多くの部活の部訓やモットーの明文化を進める。</p> <p>(自治活動)</p> <p>建学の精神、校訓、生徒心得を基に、「本校生徒として自覚を持ったあるべき姿勢・精神」を生徒会が中心となって明文化し、その継承を図る。</p> <p>また、生徒会が中心となって、紛争地域の子供たちへの教育支援や国内外の災害時に支援金等を送るなど、年齢に応じた社会貢献の観点を育てる。</p>	<p>上級生が率先して見本を示し、下級生を見守り指導する校風作り。</p> <p>生徒会による「行動規範」の励行</p> <p>通学方面別の様子を上級生が見守る体制作り</p> <p>世界を視野に置いたボランティア</p>	<p>・部訓やモットーの明文化。</p> <p>・生徒会・委員会作成の「生徒会員心得」(仮称)を新入生のオリエンテーション時の教本とし、「本校生徒としての姿勢・精神」(自他の尊厳の尊重、他者への思い遣り、譲り合いの精神、感謝の心、挨拶の励行など)の高揚を図る。特に挨拶の励行を徹底する。</p> <p>・通学時の賞賛すべき行動や改善点等を上級生が発信し、登下校時のマナー向上を促す。</p> <p>・ユニセフやワールドビジョンを通じた継続的支援や災害時の募金等、生徒会が中心となって調べ発信する。</p>	<p>・部訓・モットー・大会目標の明文化状況</p> <p>・大会実績向上への取り組み状況</p> <p>・「心得」掲示、生徒会呼びかけ状況</p> <p>・支援活動の実施と継続的定着状況</p> <p>・通学時情報の掲示状況</p>	<p>・部活動の部訓やモットー、大会目標を明文化して、部員に理解しやすいようにした。</p> <p>・感染拡大の波に翻弄され、上位大会が中止となり、部員のモチベーション維持に各部活顧問が苦慮している。</p> <p>・生徒自身が自覚を持ったあるべき姿勢・精神を生徒会が中心となり明文化に取り掛かっている。</p> <p>・通学時の行動を全校生徒に発信できるように生徒会が原案作りを始めた。</p> <p>・地元可愛される学校、国内外への広い視野を持つ学校作りが、新型コロナウイルスによって企画が途中で止まっている。</p> <p>・生徒会が率先して挨拶運動を展開している。</p>	A	<p>・生徒会、委員会作成の「生徒会心得」を新入生に伝えられるようにする。</p> <p>・挨拶運動を周知する。</p> <p>・部活動の部訓、モットー、大会目標を新入生に伝える。</p> <p>・部活動の実績を考えると、もっと強力に外部へ発信しても良いと思う。</p> <p>・部活動の部訓やモットーを丁寧に生徒に伝えて、より高いステージを目指して欲しい。</p>
4	<p>(教員研修)</p> <p>日頃から一人ひとりの教員が授業力向上へ研鑽を積んでいる。しかし、入試制度の変化や指導要領改訂趣旨などの研修のために、中高協会の「教科研究会」や予備校の「入試問題解説会」などへの継続的参加が必要である。</p> <p>また、より良い授業とするために、授業の相互参観による意見交換や「一人一年一研究」の蓄積を図る。</p> <p>コロナ禍でも学びを止めないために、オンライン授業の準備を蓄積するとともに、日頃からクロームブックを用いた授業を展開し、その映像や資料等を自学自習用の教材、進学対策用教材として、常時視聴できるよう整備、蓄積する。</p>	<p>教員の内部、外部研修会への参加</p> <p>自学自習用教材の作成と蓄積</p> <p>「研究集録」などの発行準備</p>	<p>・授業力向上のために、外部研修に年1回以上、相互授業参観年5回以上を行う。</p> <p>・電子黒板やディスプレイを用いたより効果的な授業を研究、開発する。</p> <p>・外部研修での情報を教科内で、情報によっては全教員で共有できるよう工夫していく。</p>	<p>・外部研修参加、年5回以上の参観授業実施</p> <p>・クロームブックを用いた授業実施状況</p> <p>・「一年一研究」の実施(教科合同を含め)</p>	<p>・通常の教科会以外に臨時的教科会を行い、指導内容の向上に努めた。</p> <p>・日常の授業に生徒が予・復習で活用できる埼玉平成高校独自のコンテンツ開発に各教科が力を注ぎ、現在コンテンツは120タイトルを超えている。</p> <p>・クロームブックを用いた授業開発として教員研修会を毎学期実施し、新しい知識を取り入れた。</p> <p>・ディスプレイを利用した効果的な授業展開の研究を始めた。</p>	A	<p>・ICT機器の活用研修を随時行う。</p> <p>・予・復習用の埼玉平成高校独自のコンテンツのラインアップを充実させる。</p> <p>・オンデマンド用のコンテンツが120タイトルを超えて現在も作成中と聞き、生徒が日々の学習に役立てる姿を見ることが出来るのが楽しみだ。</p> <p>・オンライン授業、ハイブリッド授業と臨機応変に授業形態を変化させて学びを止めない工夫をしている所は素晴らしいと思う。</p> <p>・対面授業の方が教育効果は高いと分かっているが、生徒の安全を第一に考えてのオンライン授業はいつまで続くのか。先生方の苦勞を考えると感謝しかない。</p>
5	<p>生徒募集の数値目標を以下のように設定し、その実現に取り組む。</p> <p>・志願者数目標 1,500名 ・入学者数目標 390名 ・中学・塾回り 延べ 2,000教室</p>	<p>定員確保を最重要課題とした生徒募集</p>	<p>・中学・塾訪問やメール等で情報提供の回数を増やし、志願者数を増やす。</p> <p>・説明会等参加者へのメール配信を検討。</p> <p>・「入試目安」を見直し、現状に即した「目安設定」とする。</p> <p>・HPの改良(本校教育の蓄積が目に入るように)。</p>	<p>・中学・塾への訪問回数</p> <p>・HPでの情報発信数</p> <p>・北辰テストの志願者増</p> <p>・入試志願者の延べ数</p> <p>・入学者数</p>	<p>・志願者数1300名となり、目標値までもう少しであった。</p> <p>・英検の級取得者を優遇する募集を行った。</p> <p>・中学校訪問216回、塾訪問1080回と訪問回数を増やした。</p> <p>・説明会を3回・個別相談会19回と回数を増やした。</p> <p>・HPの改良に着手した。</p>	B	<p>・HPから発信する内容の見直しを行う。</p> <p>・志願者数目標、入学者数目標を達成するために、生徒の活動発信や教育活動の充実、進学指導の充実、文化祭の充実等々の充実を図る。</p> <p>・受験生や保護者に埼玉平成高校のアピールしたい所を精査してはどうか。</p> <p>・募集行事の工夫で受験生が増えたのだから、来年度も工夫を凝らして頑張ってもらいたい。</p>